

コミュニティ福祉学研究科教育課程編成の方針

■博士課程前期課程

本課程では、学位授与の方針に沿って、以下のとおり必修科目(8単位)と選択科目(22単位)による30単位を修了要件とした教育課程を編成している。これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、科目ごとに定める評価基準および修士論文審査基準によって評価する。

必修科目では、1年次春学期において「研究基礎」(2単位)を履修し、研究方法・研究倫理等を学ぶことで、研究テーマを考えるための基礎知識を習得する。研究指導では、1年次秋学期に指導教員を定め、そのもとで「研究指導 1・2・3」(各2単位)を受けて、コミュニティを基盤とした福祉社会の実現に資するテーマを設定した上での知見を提出するための分析力、思考力、論文執筆の作法を段階的に習得する。これらにより、研究テーマを設定して、既存文献を批判的にサーベイした上で独自性のある問いを立てて仮説を導出し、それを適切な研究方法や質的・量的調査によって検証して、論文(修士論文)を執筆し、発表する能力を身につける。

選択科目では、科目群から22単位以上修得し、テーマに関連する専門分野の知識を得る。また、本学他研究科設置科目、大学院間単位互換科目等を一定の条件のもとに履修し、これらにおいて取得した単位を10単位まで修了要件単位に含めることができる。これらにより、下記①と②のうちのいずれかの能力を身につける。①社会福祉領域の多様な専門分野の諸課題に精通し、福祉政策及びソーシャルワークに関連する理論や専門知識を深く理解する能力、②コミュニティ政策学と、それに関連する領域から選択された専門分野を深く理解する能力。

■博士課程後期課程

本課程では、学位授与の方針に沿って、指導教授・副指導教授による研究指導(リサーチワーク)と選択科目(コースワーク)を組み合わせる教育課程を編成している。これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、科目ごとに定める評価基準および博士論文審査基準によって評価する。

研究指導では、指導教授および2名の副指導教授から指導を受け、コミュニティを基盤とした福祉社会の実現に資するテーマを設定した上で学術的に高度な知見を提出するための専門的知識と方法論的知識および批判的視点を獲得することで、質の高い博士論文の完成を図る。また、「研究指導基本スケジュール」に則り、複数回の発表・審査の機会を設けることで、博士論文の作成を計画的に行う。あわせて、学会発表を含む一定の研究業績を求める等の客観的基準を設定することで、博士論文の作成のための段階的な目標としている。これにより、既存文献を批判的にサーベイした上で独自性のある問いを立てて仮説を導出し、それを適切な研究方法や質的・量的調査によって検証して、学術的な貢献度の高い論文(博士論文)を執筆し、国内外の学会に発表する能力を身につける。

選択科目では、科目群から6単位以上修得する。また、本学他研究科設置科目、大学院間単位互換科目等を一定の条件のもとに履修し、これらにおいて取得した単位を2単位まで修了要件単位に含めることができる。これにより、コミュニティを基盤とした福祉社会の実現に貢献できる研究テーマを、広い視野から考えるための知識を習得する。